

チャレンジ!子どもがふみだす体験活動応援事業

# 「ふくしまの未来」へつなぐ 体験応援事業

実践事例集



ぼくたちの  
故郷のトマト、  
おいしいよ



この街の  
伝統文化で、  
福島を元気に!



一緒に  
植えると、  
元気が出るね!



都会の  
ど真ん中で、  
故郷をPR!

主催 福島県教育委員会

事業概要

東日本大震災及び原子力災害以降、本県の子どもたちは様々な機会に福島のことを伝える活動を行うなど、復興に貢献しようという想いを高めています。その想いを具現化できる機会を提供することで新たなステージに進み、子どもたちが主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る事業です。

採択条件

子どもたちが主となって自ら考え、判断し、行動を起こす社会体験活動・社会貢献活動等や地域の復興を支援する取組で、以下のいずれかの視点に係る事業とします。

- (1) 被災者や避難者、復興関係者、支援者等との交流活動等の取組
- (2) 地域の復興を考え、県内や他県、海外等へ復興をアピールする取組
- (3) 地域の将来を見据え、地域活性化を実現する取組

補助事業者

市町村、国公立学校、PTA、NPO等

〈補助額〉

- 事業1 50万円
- 事業2 300万円
- 事業3 300万円

※補助金額は、補助対象経費の8/10以内、または上限額どちらか低い額。  
※左記経費とは別に海外渡航費を100万円を上限に認めます。

(1) ふくしまの元気を届ける体験事業

- 避難者や被災者との交流活動を通して、子どもたちが元気を発信する活動

例

- ・ 飼育栽培委員会や緑の少年団が花を栽培し、それを届けながらの交流活動
- ・ 合唱部等が定期的に仮設住宅等を訪問したり、コンサートに招待したりと歌等で元気を届ける活動 等

(2) ふくしまの今を発信体験事業

- 地域の復興を考え、県内外で被災地の現状等について伝え、震災の風化を防止する活動

例

- ・ 震災を学び、地域の復興を考え、他県へ復興をアピールする活動
- ・ 被災地を訪問し、震災の様子を調べ伝える活動
- ・ 修学旅行、校外活動等で福島県の元気を発信する活動 等

(3) ふくしまを創る起業体験事業

- 地域の将来を見据えた地域活性化の取組を実践することでふくしまを発信する活動

例

- ・ 地域の特産物を使った新商品を開発し、その販売実習をしながら、ふくしまの食の安全をPRする活動
- ・ 地域の強みや潜在力を発信する活動 等

アクティブラーニングを実施

復興を教材とした課題解決型学習

地域への誇り

自立心

創造性

社会性

困難を乗り越える力

実行力

郷土愛

自己肯定感の高まり

新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成

福島ならではの教育として全県で推進

事業実績

令和元年度は83団体からご応募いただきました。

- 〈採択団体〉 74団体
  - 〈事業1〉 4団体
  - 〈事業2〉 62団体
  - 〈事業3〉 8団体
- となりました。



# ふくしまの元気を届ける体験事業

事業名

## 桜の聖母学院高等学校・インターアクト・コミュニティプロジェクト

桜の聖母学院高等学校インターアクト部

- 浪江から避難してきた福島市の復興住宅で生活している人たちと5年にわたり交流してきました。今年度は、マレーシアから来た方と災害の経験を分かち合い、文化や料理を復興住宅に暮らす方々と一緒に活動しました。計画を生徒自ら立て、吹奏楽部の生徒も一緒に訪問しました。



事業名

## 「思い出アートと漆の出会い」プロジェクト ～会津桐の年輪で飾る～

県立会津学鳳中学校・高等学校美術部

- 美術部員たちが復興住宅を訪問し、被災された住民の方々と交流を重ねて思い出の写真に込められた深い思いについて伺いました。それを部員の手により小さな絵画として仕上げ、住民の方々にプレゼントしました。





# ふくしまの今を発信体験事業

事業名

## ふるさと柳津魅力発信プロジェクト

柳津町立会津柳津学園中学校

- 修学旅行先の企業において、柳津町のプレゼンテーションを行いました。参加した企業の方から、「ぜひ柳津町に行ってみたい!」と感想をいただきました。柳津町について調べ、活動し、考えたことを文化祭で「町への提言」として町長さんなどに聞いていただきました。



事業名

## 「音楽と花の力で絆づくり」～被災地との交流を通して元気を発信～

喜多方市立第一小学校父母と教師の会

- 双葉郡川内村立川内小学校の児童と「演奏会と花のプレゼント」を通じた交流会を開催し、絆づくりを行いました。喜多方市立第一小学校の被災地との交流は3年目を迎えています。今回は、交流の様子を中心にふくしまの元気な姿を広く発信し、震災の風化防止に役立ちました。





# ふくしまを創る起業体験事業

事業名

## 岩農の加工品から福島を発信するプロジェクト

県立岩瀬農業高等学校食品科学科

- 東京大学本郷キャンパスで岩農のアイスマルクを販売し、本県農業に関するポスターセッションを行い、ふくしまの元気を発信し、本県農産物の魅力を広く伝えることができました。また、企業を訪問し、グローバルGAPIについて意見交換をしました。



事業名

## 福商生の復興エール販売活動

県立福島商業高等学校課題研究

- 高校で学んだ商業の知識を活かし、柔軟な発想で福島県産の食材を活かした商品開発から広告・販売を行いました。本校は作曲家古関裕而先生の母校で、話題性豊富でテーマ性のあるどら焼きやヘルシーなレトルトカレーを開発しました。



## つないでいきたい想い ~想いを先輩から後輩へつないでいます~

### 特定非営利活動法人アースウォーカーズの皆さん

- (私たちは全国各地で報告会をしています)経験したことを同世代やそれより小さい子たちに伝えていくことが重要であると思っています。
- 積極性やさまざまな角度から物事を見ることを学びました。もっと多面的な目を身につけたいと思います。
- 昨年度ドイツへ行きました。今年度は司会を務めさせていただき、昨年度と違った角度から活動を振り返ることができました。



※アースウォーカーズHPより

#### シンポジウム

### つないできた想い・つないでいきたい想い

#### 現役高校生 本多 美久さん (福島市高校生フェスティバル)

- 福島市には、市を盛り上げる活動を行い、若者の地域定着と福島市に愛着を持つ若者を増やそうと活動している高校生のネットワークがあります。その活動を踏まえて、シンポジウムに現役高校生の立場で実践について発表してくださいました。
- 「活動を通して継続することの大切さを感じました。1回で終わらせないから、信頼がついてくる。また、次に向かっていいものを創ろうと意欲が湧いてくる。その大切さを学びました。」と話してくださいました。



## シンポジウム つないできた想い・つないでいきたい想い

大学生 鈴木 朝日さん (Seeds+:南相馬市)

- 震災後、避難のため、メンバーがバラバラになりましたが、それでもマーチングバンドを行いたいと集まってできた団体で、現在は小中高生で構成され、全国に元気を届ける活動をしています。鈴木さんは、活動を通して後輩に当時の先輩たちの想いを伝えながら、後輩と一緒に活動しています。「自分たちの声や音楽を通して、福島をPRし、福島の現状を知ってもらいたい。」と話してくださいました。



## シンポジウム つないできた想い・つないでいきたい想い

子どもたちの活動を支える地域の大人として 佐久間 剛さん (都路町商工会)

- 都路町商工会では都路小学校が創った都路キュウリマンジャムの販売に携わり、都路町のよさを伝えたい小学生と一緒に活動し、応援しています。
- 「子どもたちには、都路町の魅力を再発見し、町に誇りをもって住み続けてほしい。町を活性化させる子どもたちを育てていきたい。」と話してくださいました。



今年度もたくさんの子どもたちの思いが実りました。



子どもたちの活動を支えてくださった皆さん、ご協力ありがとうございました。

令和2年3月発行

リサイクル適性   
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。